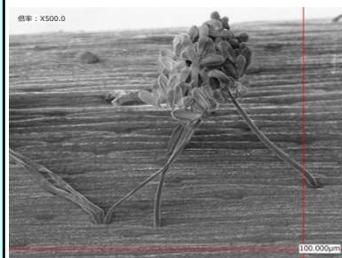


タマネギべと病根絶のための 体系防除技術に向けた取り組み

【背景・目的・成果】

淡路たまねぎは、生産量全国3位の本県を代表する農産物です。平成28年産たまねぎでべと病が多発し、生産量は平年比20%程度の減少と近年にない被害となりました。その要因として、①暖冬、連続的な風雨などの気象変動に伴い、本病の発生に好適な環境条件がそろったこと。②同病に早くから感染しやすい早生・極早生品種が増加していることが考えられます。そこで、タマネギべと病の防除を体系化し、被害の軽減化を図りました。



べと病の分生子

【第一次伝染源対策】

60日以上の水張りにより顕著な効果！

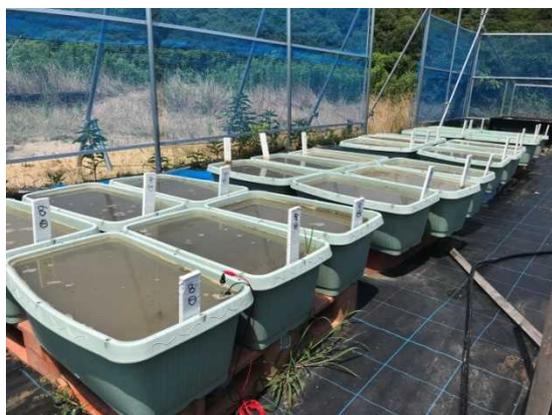


図1 湛水試験の様子

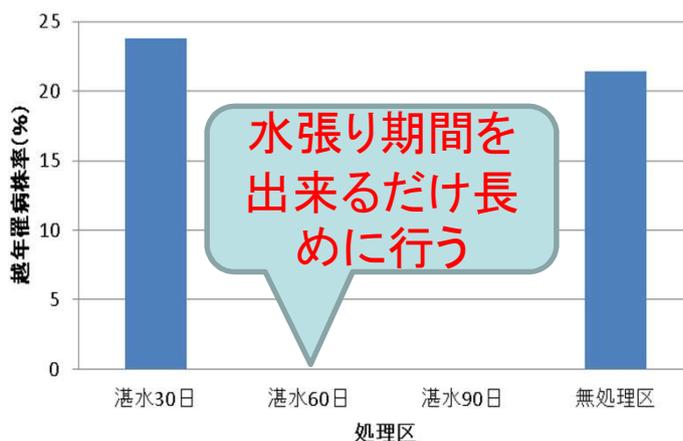


図2 湛水が第一次伝染源発現に及ぼす影響

【第二次伝染源対策】 二次伝染対策の基本は**予防防除！！**

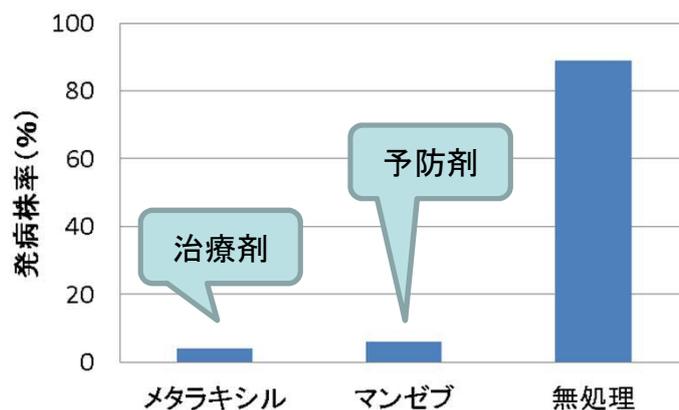


図3 初発前に防除すると治療剤と同等の防除効果

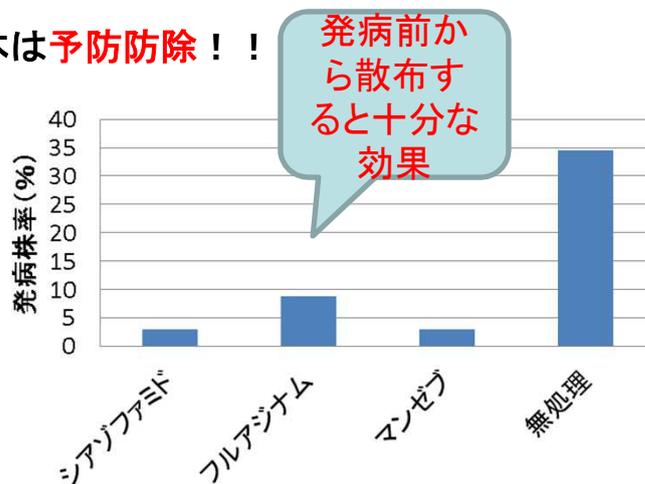


図4 予防剤でも発病前からの薬剤散布で大きな効果

【技術の活用】

一次伝染源対策として苗床の消毒による健苗育成があります。タマネギべと病対策は一次伝染および二次伝染対策を必ず併せて行う必要があります。今後、より簡便で有効な防除法の開発に取り組んでいきます。